

平成 27 年度 第 1 回 多摩六都科学館組合事業評価委員会 会議録（要旨）	
日 時	平成 27 年 6 月 30 日（火）午後 5 時から午後 7 時 45 分まで
開催場所	多摩六都科学館 2 階 201 会議室
次 第	1 委嘱状の交付 2 開会のあいさつ 3 委員及び職員の紹介 4 平成 26.年度 評価報告について 5 平成 27 年度 事業計画について 6 その他
出席者	小谷委員、坂本委員、柴田委員、杉浦委員
欠席者	桧森委員
決定事項	<p>●本日は、事業評価報告書の外部評価の評定（段階評点）までを決定し、内容を管理者に報告する。また、概要として 7 月 8 日（水）の組合議会臨時会後に組合議員に報告する。</p> <p>●委員の総評（コメント）欄は、後日、事務局から各委員に送付、内容を確認して報告書を完成する。</p>
資 料	<p>（事前配布資料）</p> <p>資料 1 多摩六都科学館 事業評価報告書（案） 平成 26 年度～平成 28 年度（3 カ年）の中期計画における平成 26 年度の実績報告ならびに事業目標の達成度等に関する評価報告</p> <p>資料 2 平成 26 年度 多摩六都科学館及び多摩六都科学館駐車場指定管理者 事業報告書</p> <p>資料 3 平成 27 年度 多摩六都科学館及び多摩六都科学館駐車場指定管理業務 事業計画書</p> <p>参考 1 評点の基準</p> <p>参考 2 多摩六都科学館事業評価活動の年間予定表（平成 27 年度） （当日配布資料）</p> <p>資料 4 多摩六都科学館利用者・駐車場利用台数集計表及び利用料金集計表（歴年度対照表）</p> <p>参考 3 多摩六都科学館事業評価活動の年間予定表（通常の年度）</p>
特記事項	平成 26 年 3 月 31 日付けで佐々木秀彦委員（東京都美術館交流係長）が退任した。後任に、坂本和弘・多摩動物公園副園長に就任を依頼し、承諾されたことから、本日、多摩六都科学館組合管理者より委任状を交付し、事業評価委員に就任する。
<p>凡例 発言者の略記（長：事業評価委員会委員長、委：事業評価委員会委員、組：多摩六都科学館組合、指：指定管理者）</p>	

## 1 委嘱状の交付

事務局より、平成 27 年度の委員に就任した坂本和弘・多摩動物公園副園長に委嘱状を交付した。

## 2 開会のあいさつ

事務局長から、本日の審議内容、組合管理者及び組合議会への報告等を説明した。

## 3 委員及び職員の紹介

坂本委員の自己紹介後、各委員の自己紹介を行い、以降、館長以下、職員スタッフの紹介を行った。

## 4 平成 26.年度 評価報告について

長) 本日欠席の桧森委員には会議の配布資料と議事録等を送付し、ご意見を伺って上で評価報告書を作成することといたしたい。

### (1) 平成 26 年度の評価の方針について

組) 事業評価報告書(案)の全体構成について説明。前年度までは「自己評価シート」による事業プログラムごとの自己点検に基づく積み上げを行って全体の評価を行っていたが、平成 26 年度からは第 2 次基本計画による戦略的な目標の達成状況と業績の評価を行うこととした。

### (2) 事業評価活動の年間予定について(参考 2)

組) 指定管理者と組合が協力して自己点検を実施し、指定管理者の事業報告を参照して報告書(案)(資料 1)にまとめた。今日の委員会で評定を行った結果を組合議会、理事会(構成市)に報告し、翌年度の事業計画や予算の見直しに活かしていく。

なお、昨年度試行した市民モニター制度を、平成 27 年度から本格的に導入する。これにより、継続的に科学館を利用している地域の市民や、科学館のステークホルダーの目線による評価を取り入れ、委員会では捕捉しがたい中長期的な定性評価を行っていく。

### (3) 報告書の内容について

組) 事業評価の意義・目的を説明。特に事業目標の達成度や取組み姿勢、進捗状況をモニタリングするために、単年度の視点だけではなく、中長期的な観点から推移や変化の継続的な評価が必要となってくる。指定管理者と組合が事業のパートナーとして一緒に評価に取り組んでいる。評価の検証方法も、毎年度検証するものに加え、中期の区切り(平成 28 年度)で検証を行う項目がある。本日は、段階評点の評定までを決定し、総評は委員会の意見を基に後でまとめることとする。

指) 自己評価について報告書(案)(資料 1)及び事業方向書(資料 2)に沿って説明する。

### ① 科学館事業

科学館事業はコミュニケーションを重視した展開を図り、目標とする「DO!サイエンス」の実現を目指している。平成 26 年度の中核では、寄贈標本の整理によるプログラムの充実と、内部で企画した特別企画展示の運営があり、地域の市民・企業や研究機関との連携により充実が図られた。

### ② 地域拠点事業-1

ボランティア活動が活発で自主的部分が進展している。外部からの注目度も高い。ジ

ジュニアボランティアの育成も着実に進んでいる。(参考 ジュニアボランティア活動記録) 友の会の充実、障害者配慮型プログラムの推進をより進めていきたい。

### ③地域拠点次長－2

科学館の事業を通して、研究所や地域の企業との連携は拡充している。地域の自然については、市民との連携が進んでいる。市民団体の高齢化に対し、次世代の参加をサポートすることや、デジタル系等のチャンネルを増やすことが必要となっている。

### ④マーケティング

毎週、4人の担当が会議を行い、タブレットを使った対面式の出口調査で顧客ニーズを的確に把握して、即座に事業に活かすことができる体制となった。チラシや科学館ニュースの配布先を見直し、ニーズの高い地域に集中したほか、プログラムが分かりやすいよう内容構成を改善した。今後はスタッフの顧客創造意識を高めること、ホームページをより充実させることなどが課題である。

### ⑤財政計画・体制整備

目標カードによるスタッフの目標管理を行い、マネージャーとスタッフが面談を重ねて目標の共有や達成への意欲を高めている。

組) 以下の事項について、組合の取組み状況について説明した。

#### ①事業計画

市民モニターの導入などで評価システムの改善が図れたことが成果である。地域拠点事業を中心とした中長期的な定性評価が重要な事項が多いので、外部と内部の両方を見据えた継続的なモニタリングの仕組みを整えるのが課題である。

#### ②経営計画

駐車場の整備を進めたが、年度内に工事が完了せず、翌年度に延びてしまったこと、施設の長寿命化を目指した長期修繕計画については調査段階であったこと。ネーミングライツは構成市にも諮ったが、「多摩六都」という名称が浸透し出していることや愛着・こだわりがあることから、慎重に検討することとしている。

#### 総評

組) 及び 指) 臨時駐車場が使用できず、駐車供給量が大きく不足する中で、なんとか 20 万人以上の利用者が達成できた。シニアキャンペーン等により積極的に利用者の分散を図ったことが功を奏した。集客が高まる中で、安全管理や施設管理が的確に行われて、大きな事故や不具合がなかったことは評価できる。(1月に発生した大型空調機の故障については施設老朽化に対する組合の喫緊の課題である)

#### 質疑

長) ジュニアボランティアの人数、活動状況はどのようになっているか。

指) 20人くらいおり、小学生から中学1年生で男女同数くらいいる。学校休業期間のほか土・日曜日に活動している。

長) 市民モニターは何人で、どうやって選ぶのか。

組) 平成26年度は友の会から応募してもらった6人で実施した。平成27年度は、友の会に加え、ステークホルダーによるモニター合計10人を予定している。

長) 20万人の集客をあげているが、利用者の構成が変わったりしているか。

- 指) 現場ではカップルやシニアの利用が目に見えて増えた。ターゲットとしては、中高校生・大学生をもっと増やしていきたいと考えている。
- 委) 中高校生・大学生を増やすのは重要である。その際、広報でITCをどのように活用しているか。調べてみると高校生では、求める情報によりPCとスマホを明確に使い分けており、SNS（ツイッター）の利用が盛んなことにも留意する必要がある。親子をターゲットとしたプログラムの中には、大人向けで十分ニーズがあるものが見られる。既存の事業が成熟してきているので、新たに攻めの展開も必要。もっと冒険をしてみてもどうか。
- 指) 学生が春休み等に入る時期に合わせて学割キャンペーンを実施していたところ、集客が伸びている。SNSやターゲティングの課題には引き続き取り組んでいきたい。
- 委) 教員免許更新のプログラムを実施してみてもどうか。
- 委) 中期評価することと平成27年度の評価はどういう関係になるか。
- 指) 中期で測定する項目は網掛けになっているが、これらは市民モニターによる定性評価や平成28年度に市民調査などを行い、改めて事業評価委員会で検討する。

#### 5 平成27年度 事業計画について

- 指) 夏の企画展は、内製で「感覚の迷宮」を実施する。企業の研究所や大学と連携をする。
- 指) 小学校との連携が進まない中、西東京市立本町小学校と体験学習・言語学習をテーマに研究事業を進めている。展示の実体験を深めるために、展示ストーリーブックを完成させる。下野谷遺跡の国指定を記念した企画展に取組んだが、人文系の展示と地球の部屋の展示を関連付けられることから、5市の博物館・資料室との地域連携事業として取り組みたい。平成27年度も集客は20万人を目指していきたい。

#### 6 その他

(特になし)

#### ◎委員会の評定

(科学館職員・スタッフ退席し、委員の間で自由討議を行い、段階評定を決定し、総評に関する意見を出し合った)

(評定決定後、指定管理者の代表者を招じて内容を報告し、終了した)